

富津市創生会議 会議録 (要旨)

1 会議の名称	第6回「富津市創生会議」
2 開催日時	平成27年12月11日(金) 午後1時～午後5時20分
3 開催場所	富津市役所5階 503・504会議室
4 審議等事項	1 富津市民委員会報告書及び第4分科会提言書について 2 今後の人口ビジョン及び総合戦略策定のプロセス(案)について 3 富津市人口ビジョン2040及び富津市まち・ひと・しごと・創生総合戦略(素案)について
5 出席者名	富津市創生会議委員(13名) 浅野 隆、稲村 重夫、岩沢 宏幸、櫛田 直也、小泉 敏、鈴木 裕士、滝田 一馬、武次 治幸、竹内 好美、中澤 道男、西田 美和子、早見 秀一、森田 泰彰 事務局 副市長 高橋 恭市、総務部長 小泉 義行、 総務部参事 池本 幸司、企画課長 重城 祐、 企画課企画係長 中山 淳子、企画課主任主事 國吉 功二 企画課主任主事 赤井 聖、企画課主事 牧野 圭吾 企画課兼務職員 高橋 亮介、荒木 宏仁、藤平 隆太郎 一般社団法人構想日本 伊藤 伸、原田 将大
6 公開又は非公開の別	公開・一部公開・非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	6人(定員 20人)
9 所管課	総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

上記会議の経過を記載し、事実と相違ないことを証するためにここに署名する。

平成 年 月 日

富津市創生会議 会議録署名人

会議録署名人

中澤委員	<p>先程、市民委員会の第4分科会が作成した資料4の10ページから12ページの類似団体資料の出典はどこか。</p>
構想日本	<p>第4分科会からの意見により、事務局で用意したものである。</p>
中澤委員	<p>私が富津市に越してきて市民に評判を聞くと、よく出てくるのが「水道料金が高い」、「保険税が高い」等の話を耳にする。市民が行政に対していろいろな意味で不信感を持っていると感じるとともに、数値的なデータで富津市の位置づけというものが把握されていないのかなと感じることがあった。今回それが類似団体と比較されたデータを示してあったので、資料を基に検証しデータに示すことが、風評を払拭することにつながるのではないかと思っている。</p>
事務局	<p>国保税が若干高くなっているということはあると思う。それを全国や県内で何番目という表記がいいのか。伝え方だと思うが、わかりやすい伝え方を今後も市はやっていくし、良い伝え方の案があればご提案いただければと思う。</p>
中澤委員	<p>資料2-1の10ページに転出者アンケートについて図表がほしい。</p>
事務局	<p>資料は既に配布済み。市内アンケート結果の要因とほぼ同様であるため、さらに記載することで分量が増えることから、確たるところを本冊として整理したものを示している。</p>
中澤委員	<p>「市内アンケートと被るため割愛した」と記載したらどうか。</p>

副会長	<p>まとめた言葉だけではなく、生データの抜粋版を出してもらえると整合性が図れるのでは、ということの中澤委員は言っている。</p>
事務局	<p>データのバランスも含めてよりわかりやすい表記にしていきたいと思う。</p>
櫛田委員	<p>資料 2-1 の 10 ページ「目指すべき将来の方向」について、どのジャンルの人間が増えるのかということがこの資料では触れられていないのが現状なので、どのように最終的にまとまっていくのか。それを考えた上でこちらの議論に入っていけないといけないと思った。</p>
事務局	<p>人口減少の原因たる出生率や転出等の抑制、転入を促進するという具体策はここにはないのではないかとということ。また、その重点はどのように考えるかということだと思うが、子育て満足度がアップすればそれが人の輪として市民満足度につながる。それによって情報発信を行政や市民によりひいては全国へ波及していく。具体的に何をやっていくのか明記したものが総合戦略であり、人口ビジョンは今後 25 年間に何かを推し進めていくというものではない。具体の方針としては総合戦略の方で記載していくことで考えている。</p>
櫛田委員	<p>資料 2-1 の 10 ページにある①アンケート結果が 2040 年にどう変わっているのかという目標数値というのが、現状②では全くない。どのように変わっているべきかという目標でもいいのでグラフにして数値化すれば総合戦略の方で考えていけばよいということか。</p>

事務局	<p>総合戦略は5か年計画であるため、2040年に向けた当初5年間で何をやるか。その積み重ねが25年後の富津市の姿だと考える。</p>
櫛田委員	<p>結果として出てくるのは、資料2-1の10ページにある①のアンケートで出た結果「頑張りましょう」と②で言っているだけであって、明確なビジョンが足りていない。目指すべき将来の方向として挙げている①～③まででは具体的なところまで踏み込んでどういう人口を増やしていくのかというところまでアンケート結果を反映させたビジョンをもう少しわかりやすく伝えた方がいいのではないか。</p>
会長	<p>今の櫛田委員の意見に関連して何か意見等あるか。</p>
稲村委員	<p>目指すべき将来の方向について、もう少し詳しく書くべき。</p>
西田委員	<p>櫛田委員のおっしゃるように、ここに書いてあることは他自治体でも共通のこと。富津市の人口ビジョンとしてはメリハリがない。もう少し書き込んでもいいのでは。</p>
鈴木委員	<p>富津市としての独自の長所を打ち立てていかないといけないような気がする。</p>
滝田委員	<p>資料2-1の7ページ「3. 人口減少による影響」の部分が弱いのではないかという話を前々回から意見としてさせてもらっているところであるが、どうして3万から3万5千人へとプラスに転じることが重要なのか。何か大変になることはわかるが、これでは市民は危機感を抱かないのでは。この資料だけではただ減るということしか読めない。具体的な根拠を示す</p>

	<p>ことが本来の目的であり、入れることは必須ではないかと個人的には思っている。</p> <p>人口が減ったときに具体的にどうなるのか、というデータを市としても示せるのであれば示したかった。ただ、人口がそれだけ減ったということを理由に、一般的な根拠をもってこうなります、というのを示すことが、市の持っている情報や知識で示しきれなかったという部分がある。そのあることから一般的な示し方になっている。</p> <p>2040年の年少人口が少なくなるということは大人になったときに子供の親が少なくなることに直結することから、仮に2040年に3万人の人口でいいと進めていってしまうと、次世代の子がさらに半分になるという道を既定路線としてつくってしまうことになるのではないかとということが富津市の考えている危機感である。そこを文章で伝えようと記載したのが資料2-1の10ページ「目指すべき将来の方向」中の「効果が出るまでに1世代かかる」という部分である。減少した場合の財政や施設面等の説明はあくまでも人口で示しきれるものではなく、面積や人口分布の関係もあることから、市として客観的なデータでは示しづらかったというのが正直なところである。</p>
<p>事務局</p>	<p>人口が減ったときに具体的にどうなるのか、というデータを市としても示せるのであれば示したかった。ただ、人口がそれだけ減ったということを理由に、一般的な根拠をもってこうなります、というのを示すことが、市の持っている情報や知識で示しきれなかったという部分がある。そのあることから一般的な示し方になっている。</p> <p>2040年の年少人口が少なくなるということは大人になったときに子供の親が少なくなることに直結することから、仮に2040年に3万人の人口でいいと進めていってしまうと、次世代の子がさらに半分になるという道を既定路線としてつくってしまうことになるのではないかとということが富津市の考えている危機感である。そこを文章で伝えようと記載したのが資料2-1の10ページ「目指すべき将来の方向」中の「効果が出るまでに1世代かかる」という部分である。減少した場合の財政や施設面等の説明はあくまでも人口で示しきれるものではなく、面積や人口分布の関係もあることから、市として客観的なデータでは示しづらかったというのが正直なところである。</p>
<p>櫛田委員</p>	<p>マイナスの情報を公表すると自然数以上の人口減にもつながりかねないため、希望を持ってもらえるようなビジョンを市民に伝えた方がいいのではないかと個人的に思った。</p>
<p>浅野委員</p>	<p>一般の市民がざっくりとイメージできればいいと思う。資料2-1の10ページ「目指すべき将来の方向」①～③について、決意表明として宣言した形の文言の方が市民に伝わるのでは。</p>

会長	人口ビジョンから総合戦略にかけての話の流れがピンと来ない。つながりをわかりやすいように表記したらどうか。
櫛田委員	アンケート結果が無くてもこの将来の方向は出たのか。
事務局	出なかった。
櫛田委員	総合戦略につなげるための背景を説明するだけの人口ビジョンなのか、未来に向けた戦略が含まれているものを作り上げるものなのか、その辺がピンと来ない。
事務局	事務局としては、人口ビジョンに戦略要素はあまり盛り込む必要はないと考えている。ただ、戦略につなげるための方向性を示すものとして、資料2-1の10ページ「目指すべき将来の方向」を記載している。アンケートと目指すべき将来のつながり方がよくわからないという意見はわかるので、目指すべき将来のカテゴリの中でアンケートから導かれているということがわかるように書き方を工夫していきたいと思っている。
櫛田委員	浅野委員がおっしゃったように宣言的になればインパクトがあってよい。
事務局	その通りにするつもりが作業の中で漏れてしまった。
構想日本	どの自治体も人口ビジョンを作成しているが、その中で富津市人口ビジョンの大きな特徴は2040年出生率を1.83というアンケートから導きだした数字に今回変更されたというのは極めて稀であり、国が2.1という目標を立てているため、どこの自治体も2.1に合わせている。人口ビジョンと総

<p>早見委員</p>	<p>合戦略の関係について記載することが市民の皆さんはわかりやすいのかなと感じる。</p> <p>明確にタイトルの表紙に「中期」「長期」と記載してみては。また、人口ビジョンは「2040」、総合戦略は「2015-2019」との表記であるため統一されたらどうか。 (→人口ビジョンは「2015-2040」に)</p> <p>(休憩)</p>
<p>事務局</p>	<p>○富津市まち・ひと・しごと・創生総合戦略（素案）について (資料2-2 第1章 基本的な考え方の説明)</p>
<p>会長</p>	<p>意見、質問はあるか。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>プロモーションテーマについて、カールスバット市と姉妹提携しているので、「東京湾ウェストコースト」とかどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>たたき台には挙がっていた。</p>
<p>小泉委員</p>	<p>夢を持てるようなテーマも必要だと思う。</p>
<p>竹内委員</p>	<p>長文よりもシンプルなものの方がよい。鈴木委員が挙げたものはおしゃれでいいと思った。</p>
<p>西田委員</p>	<p>資料2-1の4ページ、総合戦略の位置づけについて、趣旨の部分と人口ビジョンの減少抑制策というところに含めて作っているということを前段にもってきたらどうか。そうすると</p>

<p>櫛田委員</p>	<p>次の基本目標に入りやすいかなと思った。</p> <p>プロモーションテーマについて4つとも人が何をするかが入っていない。ここが市民の気持ちの表れが出てくるところだと思うので、「こうします」と言うような何らかのプロモーションテーマにならないのかと思った。</p>
<p>事務局</p>	<p>プロモーションテーマを決めてから文章を作成しているところもあり、全国に売り出すためのテーマでもある。〇〇をやります、というのは総合戦略の主文に書いていって実行していくことが大切だと考える。</p>
<p>櫛田委員</p>	<p>例として「地域の魅力を最大限に活用します」という表現であれば、市民としてあるいは観光としてやっていくという宣言を市民の言葉としてすべて含んだキーワードを盛り込んだコピーにしたらどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>つまり、DO（実行）の方で構成されたらいいのではないかということか。</p>
<p>櫛田委員</p>	<p>表現を能動化していくイメージ。現状は受身のようなコピーになってしまっている。</p>
<p>会長</p>	<p>櫛田委員が言うのは、具体的に誰が何をどうするかというものがないと、このままで終わってしまうという危惧もあるということ。</p>
<p>櫛田委員</p>	<p>テーマの4点について、「東京にいちばん近い海と里山のまち」の状況はわかるが何をするかというものが見えてこない。</p>

	<p>「日本一の『普通』富津」は面白いと思うが定義づけとして弱い、受動的なものになっている。「東京湾を一望する『あったかい』まち」は一望できると状況を説明しているだけ。「ひととひととがつながる東京湾自然海岸のまち」はこの中で一番人の動きが見えるが、受動的なのか能動的なのかの違いがある。なので、表現の工夫が必要。</p>
鈴木委員	<p>テーマは短いフレーズがよい。内外どちら向きの言葉かを考えると、個人的に外に打ち出すイメージで捉えている。富津市としての意思をサブタイトルに用いてみたらどうか。</p>
西田委員	<p>「日本一の『普通』富津」Futtsu is futu はこれまでに挙がっていなかったテーマであり、質問としてどういう経緯で後者が挙げたのかお聞きしたい。また、シティプロモーションについて、半分外向けの書き方をしている点に疑問が残る。外向けのスローガンの部分と背景に至った意思の部分と組み替えて書いた方がよいのでは。</p>
滝田委員	<p>私が「あったかふつつ」というフレーズを耳にしたのは、富津市に移住してからである。結果的に中の人に伝わるような感じで考えてしまっているのでは。</p>
事務局	<p>西田委員の質問について、構想日本の伊藤氏から提案があり、音で笑いがとれるのではないかという話題性から挙げた。</p>
構想日本	<p>これまでに富津を訪れて一番強く感じているのが一個の目玉があるわけではないが、いいなと思う点はいくつもある。なので、市民の皆さんが日常的に思っていることが相対として魅力だと感じていて、実は普通でいること自体が難しいことなの</p>

<p>会長</p>	<p>だろうなと思う。</p> <p>このプロモーションテーマはいつまで意見をあげたらよいか。</p> <p>サブタイトルで意思を見せた方がいいのでは。</p>
<p>早見委員</p>	<p>「ひととひととがつながる～」は柔らかさを表現させるために「人」をひらがなにしたり、読みづらいため文字の空間をとっている。そうすると、つながりがなくなってしまう、人と人が離れてしまっているイメージになってしまっている感じがする。ここは漢字にしてつなげてもらった形に改めるように考えてもらいたい。</p>
<p>中澤委員</p>	<p>東京とか他の地名を入れるのではなく、櫛田委員のおっしゃったとおり、人を意識させる能動的な表現で作ったキャッチを盛り込んでほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>タイトなスケジュールで申し訳ないが、意見がある方は14日（月）までをお願いしたい。</p>
<p>西田委員</p>	<p>3点目の経営改革の推進について、「財政運営が行える環境づくりを目指す」と前回よりも後退した形になってしまっているので、対案がなければ「～推進します」と宣言した格好にしたらどうか。また、「環境づくり」というフレーズも同様の感じがする。</p>
<p>事務局</p>	<p>「推進します」に変更する。また、「環境づくり」の部分は、よりわかりやすくシンプルな表現に変更したいと思う。</p>

事務局	<p>(休 憩)</p> <p>(資料 2 - 2 第 2 章 基本目標について説明)</p> <p>基本目標 1 自分のくらす地域を好きになる</p> <p>基本目標 2 くらしやすく、移住しやすい環境づくり</p> <p>基本目標 3 子どもの笑顔があふれるまちへ</p> <p>基本目標 4 市の産業・仕事を創る</p>
小泉委員	<p>市の産業、地場産業について、漁業でいうと今年は海水温が高く海苔が採れず、不作を通り越して凶作である。自然相手の仕事は何十年に 1 回このようなことがあり、安定した収入を考えると不安のある職種である。そのような中で、国・市からの補助金、設備投資も含めて漁業の雇用創出を図っていく必要がある。一次産業もこれからは職に就くためのハードルを下げて若い人へつなげる必要がある。</p>
森田委員	<p>基本目標の 2、4 について、行政の取組の施策がほとんど国の事業が記載されており、農地の取得の下限面積を下げる、または行政特区にする、などの市民委員会で出た市独自の施策がない。市民委員会で出た意見が反映されていないのはなぜ。</p>
事務局	<p>市民委員会で出た意見については、素案を作成する段階で庁内協議をした結果、5 年間でできる施策を上げている。</p>
森田委員	<p>下限面積を下げることをしないと、半農半 X の P R をしても現実味がない。</p>
事務局	<p>県内他市で下限面積を下げて取得した農地をすぐに放棄し</p>

	<p>てしまったという事例がある中で、下限面積を下げることに積極的になるのはどうかという考えがあることから、このような表記になっている。</p>
森田委員	<p>私の個人的な意見ではなく、市民委員会での意見でもある。</p>
事務局	<p>下限面積については、入れる方向で積極的に検討します。</p>
浅野委員	<p>地域・民間なら地域金融機関、行政の取組については課名を入れるなど、プレイヤーが誰なのかを示してほしい。固有名詞は入れなくてもそれがはっきりしていないと責任の所在が曖昧になってしまう。少なくとも行政の取り組みは課名を記載してほしい。</p>
事務局	<p>新しい施策については、組織内調整が整っているわけではないので、課名の記載まではできない。スケジュール的に難しい。</p>
榎田委員	<p>これは戦略ではない。やりたいことだけを述べているだけで、具体的にどうやるのか、誰がやるのかが全くない。基本目標が4つあるが、ここに書かれたプランを市民参画でどう実行していくかを5つ目に記載しないと PDCA にならない。</p>
事務局	<p>この総合戦略を具体化していくための手続きとしては、実施計画による。</p>
榎田委員	<p>誰がやるのかをどうやって決めるのか、ということ。「市民参画ができるようなシステムを構築します。」という表現が入っていれば、何かプロジェクトを実施する時に市民が議論できる。</p>

<p>構想日本</p>	<p>個々の事業計画を作らなければならないというのは、市民委員会でもずっと議論のあったところで、それが書かれていないから委員の皆さんが不安になっていると思う。また、資料 2-2 の 3 ページ (2) では、計画を実行する段階で、市民の意見を聞くという表現はしておらず、市としては Do (実行) の責任主体は行政だと考えているので、3 ページの (2) の表記に留まっている。個人的には、この計画がどのように進んで、どういうチェックがあつてどのように評価されるかということをもっと掘り下げて書いておくべきと考えている。</p>
<p>西田委員</p>	<p>基本目標 1 から 4 までを達成するための仕組み、推進体制が入っているとよい。また、基本目標 1 の③を基本目標 3 へ、基本目標 1 の④を基本目標 2 の④と統合しても良いのでは。</p>
<p>会長</p>	<p>高齢者の記載はあるが障がい者に係る記載がないので基本目標 1 の③に障がい者も入れておくのがよいのでは。</p>
<p>事務局</p>	<p>記載方法については整理する。</p>
<p>早見委員</p>	<p>総合戦略の推進体制について、PDCA の Do (実行) ではなく Plan (計画) の段階で決めておかないといけないと思うが、再度確認したい。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料 2-2 の 3 ページ、PDCA の実行のところに、総合戦略の実施手順として実施計画を早期に定めることを明記したい。</p>
<p>楯田委員</p>	<p>4 つの基本目標に向かって、具体的に何をどうやっていくのかということをも 5 つ目の欄を設けてそこに加えることができれば、PDCA サイクルに盛り込んでいけると思う。すべての共</p>

事務局	<p>通項、方法論をそこに入れていくイメージ。</p> <p>今後、実行計画を個別に策定していく中で、基本的にはこういう策定の仕方をしますという大枠の雛形を示しておくイメージでよいか。</p>
橿田委員	<p>それが近い。</p>
会長	<p>もう一つ項目を立てて推進体制、推進方法を書いておけばよいと思う。</p>
橿田委員	<p>市民委員会の意見が反映されているのはわかる。しかし、市民の意見をうまく盛り込んでいけるのかがわからない。行政の取組に市民が参画したくても、対応する窓口がない。市がやることを決めていく上で、市民の意見をどのように聞くのか。具体的に事業を実施する際の市民参画の仕組みを実行するというような記載を盛り込むとともに、そのことをわかりやすく記載した方がよい。</p>
事務局	<p>市が事業を実施する際に、改めて市民から意見を聞くという理解でよろしいか。</p>
橿田委員	<p>市と市民では、意識にずれがある。この戦略では、市民の意見から取組む事業を挙げたのだと思うが、今後、1つの事業に対して市民の意見がどのように吸い上げられるのか、市民参画の仕組みが書かれていない。</p>
事務局	<p>3ページのPDCAサイクルの、Plan（計画）からDo（実行）までの間で、どのようにDo（実行）を決めるのか、その流れ</p>

<p>櫛田委員</p>	<p>がわからないという理解でよろしいか。</p> <p>市で何かイベントを実施する際に、市民や民間から意見を聞かずにやってしまうと失敗することがある。市ではできないことでも、民間では簡単にできてしまうこともある。市と民間で話し合うことで、課題を共有し一緒に Do（実行）を創り上げることで、その後の Check（評価）もやるようになるだろうから、市民と一緒に Do（実行）を創り上げるプロセスがほしい。現在は、Plan（計画）を作っただけである。</p>
<p>西田委員</p>	<p>Check（評価）と Act（改善）には、市民参画の手法を取り入れるとの記載があるが、Plan（計画）から Do（実行）には、そのようなフレームがないように読める。</p>
<p>会長</p>	<p>この戦略は、市民を巻き込まないとできない計画なのだから PDCA で市民がどのように関わられるのかの仕組みがわかるようにということ。</p>
<p>事務局</p>	<p>そもそもこの総合戦略を策定するにあたっては、Plan（計画）の段階で市民参画の手法をとっており、Do（実行）の段階で市民、地域、行政ができることを整理した。Check（評価）の段階では、あくまで行政の取組だけを評価するものと考えている。市民ができることについては、評価のしようがない。</p>
<p>会長</p>	<p>Plan（計画）の段階から市民参画の手法をとっているなら、評価も行政の取組だけでなく、市民、地域を含めた全体を評価しないとイケないのでは。</p>
<p>事務局</p>	<p>市民、地域ができることの評価の仕方について、イメージが</p>

<p>櫛田委員</p>	<p>できない。市としては、市民、地域の義務として記載しているのではなく、道徳観としてお願いしているという認識である。</p> <p>市民は、戦略に記載されていることを今後意識していくというスタート地点に立った。しかし、市民が当たり前の道徳ができていくのかについては、行政は関われない部分である。地域団体等が地域のモラル向上などコーディネートをする際には、市は何らかの形で関われると思うが、そのような仕組みが現在ない。</p> <p>市が事業を実施する際に、市民が関われないと計画通りに実行できないのではと思うが。</p>
<p>事務局</p>	<p>市民委員会では、「市民ができること」などとの表現はいかななものか、と議論されたところである。市としては、市民、地域に責任を負わすべきではないとの認識である。</p>
<p>西田委員</p>	<p>市民、地域ができることについては、行政が評価するべきではないと思っている。</p> <p>行政がやったことだけを評価して、目標値にどの程度寄与したのかを測るのであれば、目標を達成するための行政の取り組みの記載が足りないのでは。</p> <p>行政の取り組みに「市民、地域ができること」の効果を得ることで、目標を達成するのだと思う。</p>
<p>櫛田委員</p>	<p>「市民ができること」ではなく、「市民が望むこと」として捉えることで、行政の施策が創り上げられているというストーリーならわかる。事業を実施する際には、再度、市民から意見を聞いて、ニーズに応えるという仕組みがあるとよいと思う。</p>

西田委員	<p>PDCA サイクルにおいて、どの過程でも市民が参画できるという記載があるイメージである。</p>
会長	<p>この部分については、櫛田委員に一任する。</p>
事務局	<p>素案の策定期限が迫っている中で、追記した方が良い部分についてイメージがつきにくいところもあるので、メールでいただけるとありがたい。</p>
会長	<p>以上をもって第6回創生会議を終了する。</p>
事務局	<p>資料訂正の説明</p> <p>資料4の11ページ中段表中、平均欄の1 k m²当り 836.9 k mの単位を「冊」に修正願う。</p> <p>第7回「富津市創生会議」の開催について</p> <p>2月6日（土）午後1時30分から「富津市民委員会」と合同で開催する。</p> <p>（終了時刻 午後5時20分）</p>

以上